



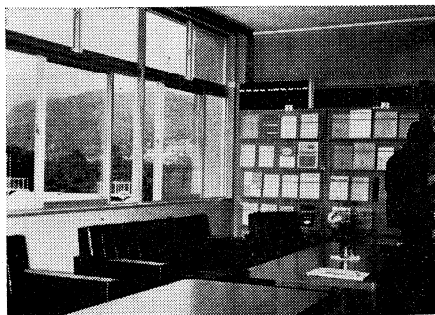
理学部・教室図書室 (2)

今回は最近新築された教室の図書室二つを紹介しよう。

物理教室は、1929年に建てられた旧館をこわして新たに今の5階建が出来た。教室の歴史と共に、図書室のそれも古く、現在約3万冊以上の蔵書がある。

デラックスだといわれている新図書室は、横8m、縦21mの閲覧室を持ち、横に3層の書庫がついている。閲覧室の片隅には、ガラス張りの事務室があり、その前にカウンターがひかえている。閲覧室は総計48人収容出来、他に雑誌コーナー、肘応接セットが置かれ、読み易いよう、利用者本位に設計されている。窓外に目をやると、比叡山がすぐ近くに見られ、雨あがりの緑は格別の趣がある。ここに引越して以来日が浅く、貸出規定がまだ決らない状態なので、暫定的に従来通りの方式を採用している。利用者は外部の人も多く、係員はてんこ舞の忙しさである。今のところ外部の人には複写だけの貸出を認めており、今後この方針が続けられるであろう。

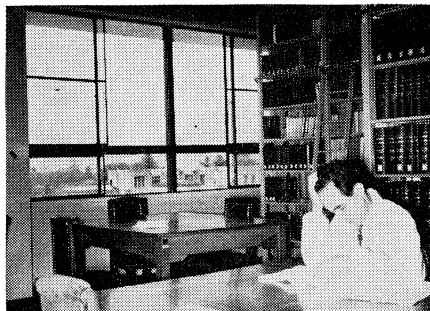
今後の大きな課題は、この施設にふさわしい立派な図書室に育てることである。施設だけが立派で、それだけで利用者が利用しやすくなるであろうか。また、大きくなればなるだけ利用者の利害が一致にくく



あとがき この号は、編集の時期が丁度猛暑のさ中にあたりましたが、文字通り汗の結晶としてどうやら無事に刷り上げることが出来ました。これも、学問を愛し、図書館を愛する多くのかたがたの、熱心な御寄稿、暖かい御支援のたまものです。厚く御礼申し上げます。

今回の東西南北には、歴史の古い図書室のうち、新築されたものを取り上げました。ここにも、まだ幾つかの問題が残されていますが、今後の拡充、発展を期待いたします。

なるが、本当によい図書室にするにはどうすればよいのか。このような点について、皆さまの御意見を聞かせていただければ幸いです。



化学教室の歴史は古く明治30年の創設である。昨年5月に新しい化学教室が出来上り移転を完了した。新建築では総面積が旧館より縮少しているにもかかわらず図書室に対しては大きな考慮がはらわれた。以下図書室の現状を簡単に紹介しよう。蔵書数18,000冊、年間予算(昭和40年度)300万円。

第1図書室(516号室、158m²)は書棚が96m²を占め、残り64m²に閲覧机を置き30名まで読書できるようになっている。また新着雑誌約100種類を展示している。定数表、全書なども在庫し、この他に寄贈の雑誌や研究所報告など数百種類在庫している。図書掛はここに常駐して図書事務すべてを行なっている。5階の北側にあるので比叡、蓬来、鞍馬、花背の山々が遠望できる。

第2図書室(526号室、32m²)は1800年代から1930年代までの貴重な雑誌を保管している。貴重な雑誌であるので利用者は特に図書掛に申し出ることになっている。

第3図書室(529号室、32m²)には主として講義参考書などの単行本が置いてあり学部学生の利用が特に多い。この部屋は5階の南側にあつて大文字山、愛宕山、晴天には遠く生駒、天王山が一望できる。

以上が新しい化学教室図書室である。職員は2名であるがその内の1名が中央事務兼務のため他の1名は日常の雑用、閲覧者へのサービス、毎日のように送られてくる雑誌の整理、ゼロックスの業務など多忙な日々であるが利用者の便に供するため努力している。